

中央教育審議会大学分科会(第151回)

「地域における高等教育機関と大学間の連携の在り方について」 発表資料

「めぶく。プラットフォーム 前橋」について

発表者：共愛学園前橋国際大学 学長 大森昭生

前橋市政策部未来の芽創造課 課長 谷内田修

めぶく。プラットフォーム前橋の概要

前橋ビジョン

～2016年に官民協働で策定～

Where good things grow.

その芽は、まだ小さい。
風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。
そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、
強く太い幹となる日を夢見ている。
人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。
いまは幼い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.

この地ではじまる、芽ぐみ。
ここから、よきものが伸びてゆく。
いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていくだろう。

Where good things grow.

わたしたちは、この地の芽吹きのために、
未来に希望の森を見るために、
厳しくも優しい風になろう。
慈しみの雨になろう。
そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.

きっと、芽吹く。
前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。

めぶく。



前橋市では、平成28年2月2日「都市緑化推進計画（民間協働）推進事業」において、前橋のビジョン策定の取り組みを開始しました。
その際、マツダグループと協働して行われた意見交換にて、この「前橋のビジョン」が創案されました。
この「前橋のビジョン」は、前橋市とマツダグループが協働して策定したものであり、前橋市とマツダグループが協働して策定しました。
前橋市とマツダグループが協働して策定したものであり、前橋市とマツダグループが協働して策定しました。

【お問い合わせ】
前橋市政策推進課 027-444-4000
info@citymaebashi.gunma.jp
一級建築士法人設計事務所
info@maebashi-design.com
前橋市 / 前橋市と協働 / 前橋のビジョン策定推進

めぶく。

Where good things grow.

その芽は、まだ小さい。
風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱さにその身をあずける。
そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、
強く太い幹となる日を夢見ている。
人は芽だ。この地は芽だ。そしてつながりは芽だ。
いまは幼い芽だけれど、未来の大樹を隠し持つ芽だ。

Where good things grow.

この地ではじまる、芽ぐみ。
ここから、よきものが伸びてゆく。
いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をつくっていくだろう。

Where good things grow.

わたしたちは、この地の芽吹きのために、
未来に希望の森を見るために、
厳しくも優しい風になろう。
慈しみの雨になろう。
そして、なによりも熱い太陽になろう。

Where good things grow.

きっと、芽吹く。
前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。

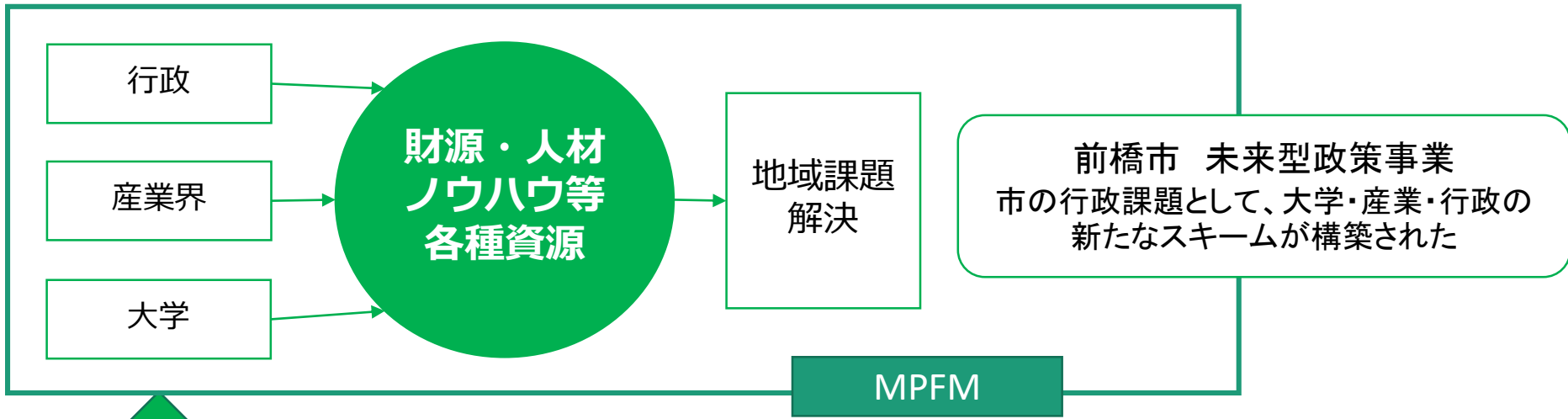


<https://youtu.be/oPIWvklgerM> (前橋ビジョン) / <https://youtu.be/t6IFISYqtVQ> (ビジョン発表会)



めぶく。

「めぶく。プラットフォーム 前橋」(MPFM) 概念



2018年9月 MPFMを運営するための組織として推進協議会が発足

地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進協議会



- 前橋市
- 前橋商工会議所
- 群馬大学
- 県立県民健康科学大学
- 市立前橋工科大学
- 群馬医療福祉大学
- 明和学園短期大学
- 共愛学園前橋国際大学



<https://www.mebuku-pfm.jp/>



めぶく。

推進協議会の組織



代表者会議

No	分野	団体	職	氏名
1	産	前橋商工会議所 (中屋商事(株) 代表取締役社長)	会頭	曾我 孝之
2	学	共愛学園前橋国際大学	学長	大森 昭生
3	官	前橋市	市長	山本 龍

副会長
副会長
会長

運営委員会

No	分野	団体	職	氏名
1	産	前橋商工会議所 (株)群馬銀行 専務取締役)	副会頭	深井 彰彦
2	産	前橋商工会議所 (カネコ種苗(株) 代表取締役社長)	副会頭	金子 昌彦
3	産	前橋商工会議所 (株)ヤマト 代表取締役会長)	常議員 広報・広報委員会 委員長	新井 孝雄
4	産	前橋商工会議所 (学)有坂中央学園 理事長)	常議員 労務・人材育成専門委員会 委員長	中島 利郎
5	学	国立大学法人群馬大学	学長	平塚 浩士
6	学	群馬県公立大学法人 群馬県立県民健康科学大学	理事長 学長	高田 邦昭
7	学	公立大学法人前橋工科大学	理事長	宮下 雅夫
8	学	前橋工科大学	学長	星 和彦
9	学	学校法人昌賢学園 群馬医療福祉大学・短期大学部	理事長 学長	鈴木 利定
10	学	学校法人共愛学園	理事長	須田 洋一
11	学	共愛学園前橋国際大学	学長	大森 昭生
12	学	学校法人平方学園 明和学園短期大学	理事長 学長	桜井 直紀
13	官	前橋市	政策部長	稲田 貴宣
14	官	前橋市	産業経済部長	櫻井 正明
15	官	前橋市	指導担当次長	林 恭祐

副委員長
副委員長
副委員長
委員長

オブザーバー

官	群馬県 労働政策課
官	群馬労働局 職業安定課

事務局

前橋商工会議所、共愛学園前橋国際大学等市内大学、前橋市の共同事務局

※役職等は発足当時のもの



めぶく。プラットフォーム 前橋が取り組むべき方向性

「地域人材の育成・定着」

1

目的

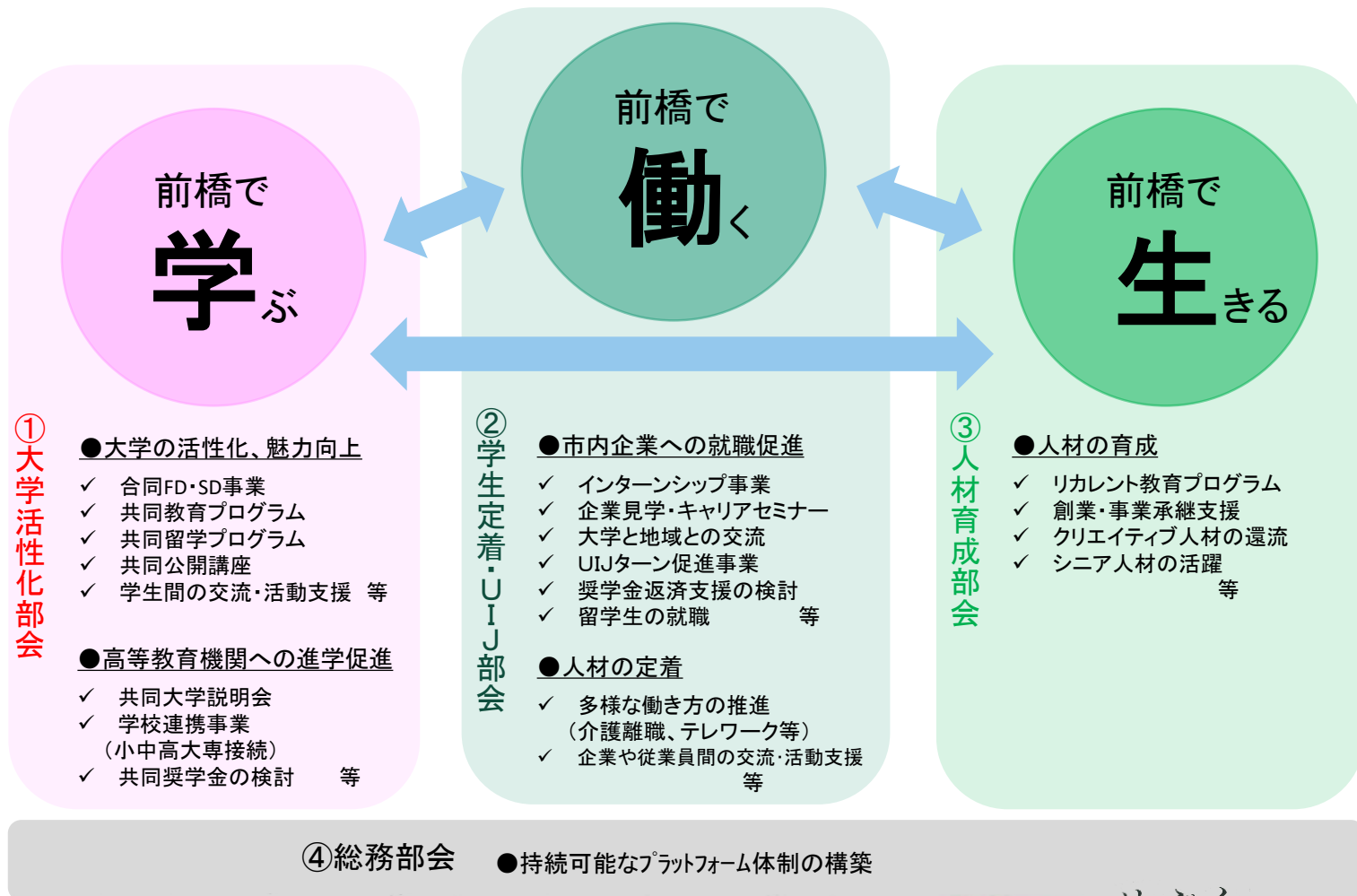
前橋市のビジョン「めぶく。～良いものが育つまち(Where good things grow.)～」には、「前橋の未来に向かって、これまで大切にしてきたまちの誇りや可能性を受け継ぎ、磨き育て、新たな価値を生み出しながら、将来を担う子や孫たちの世代に未来への襷として繋いでいくことを、ここに暮らす全ての人で実現する」という想いが込められています。

この街では、ビジョンのもと、学びたい者は大きな繋がりの中で豊かに学び芽吹くことができ、働きたい者は支える仕組みに励まされながら伸びることができ、仕事を承継させたり生涯にわたり活躍したいと願う者は新たな知見を得て実り継ぐことができる。

私たちは、ここ前橋で、個々が自分らしく光輝くために、人材を芽吹かせ、はぐくみ、根付かせていきます。

2

テーマ



3

部会
・
取組

地域連携プラットフォームに関する取組例 「めぶく。プラットフォーム前橋」

前橋市の課題は人口減少であり、特に生産年齢人口（15歳～64歳）の変動が大きく、平成17（2005）年から平成27（2015）年までの10年間で約2万2千人が減少しています。

その大きな要因が、15歳～24歳の転出超過であり、進学や就職のタイミングで市内に定着しにくい状況となっています。また、定着の状況について他機関を含め具体的な数値を把握できていないことや、市内全ての大学が参加する形での産官学連携体制が図られておらず、それぞれのリソースを十分に共有・発揮できていないことも大きな課題と捉えていました。

そこで、平成30（2018）年9月25日、市内の国公私立全6大学・前橋商工会議所・前橋市は、連携協定を締結し、産学官が知恵を出し合うための協議会「めぶく。プラットフォーム前橋」を設立して、地域人材の育成・定着の課題解決に向けた強固な連携体制を推進しています。

プラットフォーム形成によって、産業界、行政、教育界が共通して抱える複合的な地域課題（若者の地元進学・就職、事業承継等）の解決を行うことを目標としています。

（高等教育に係る目標の例）

- ・前橋市内大学の魅力向上と情報発信の強化を通じ、入学者市内占有率について令和5（2023）年度までに平成30（2018）年度実績以上の水準を達成します。
- ・魅力溢れる市内産業との接触機会の創出等を通じ、市内就職率について令和5（2023）年度までに平成30（2018）年度実績以上の水準を達成します。



産学官代表者らによる連携協定締結の様子



本プラットフォームに参加する産学官各団体のロゴ

平成30年度 文部科学白書

めぶく。プラットフォーム前橋
構築の背景
行政・産業界にとっての課題や意義
取組の経緯（何をしてきたか）



① 前橋市のミッション

都市の暮らしやすさ、多様性、寛容性をベースに
街や人が幸せになる新たな価値の創造(めぶく)に挑戦する人やコトを支える

② 前橋市の取り組み

民間共創

- 都市魅力アップ
- 前橋ビジョン
- 太陽の会
- 太陽の鐘

市民・大学との連携

- めぶくプラットフォーム
- 大学連携
(やる気の木、COC+)
- ソーシャルアクション

未来型政策

- EBPM
- MaaS、自動運転
- ICTまちづくり
- 成果連動





大学との連携

- めぶく。プラットフォーム前橋

■ どうしてできたか？

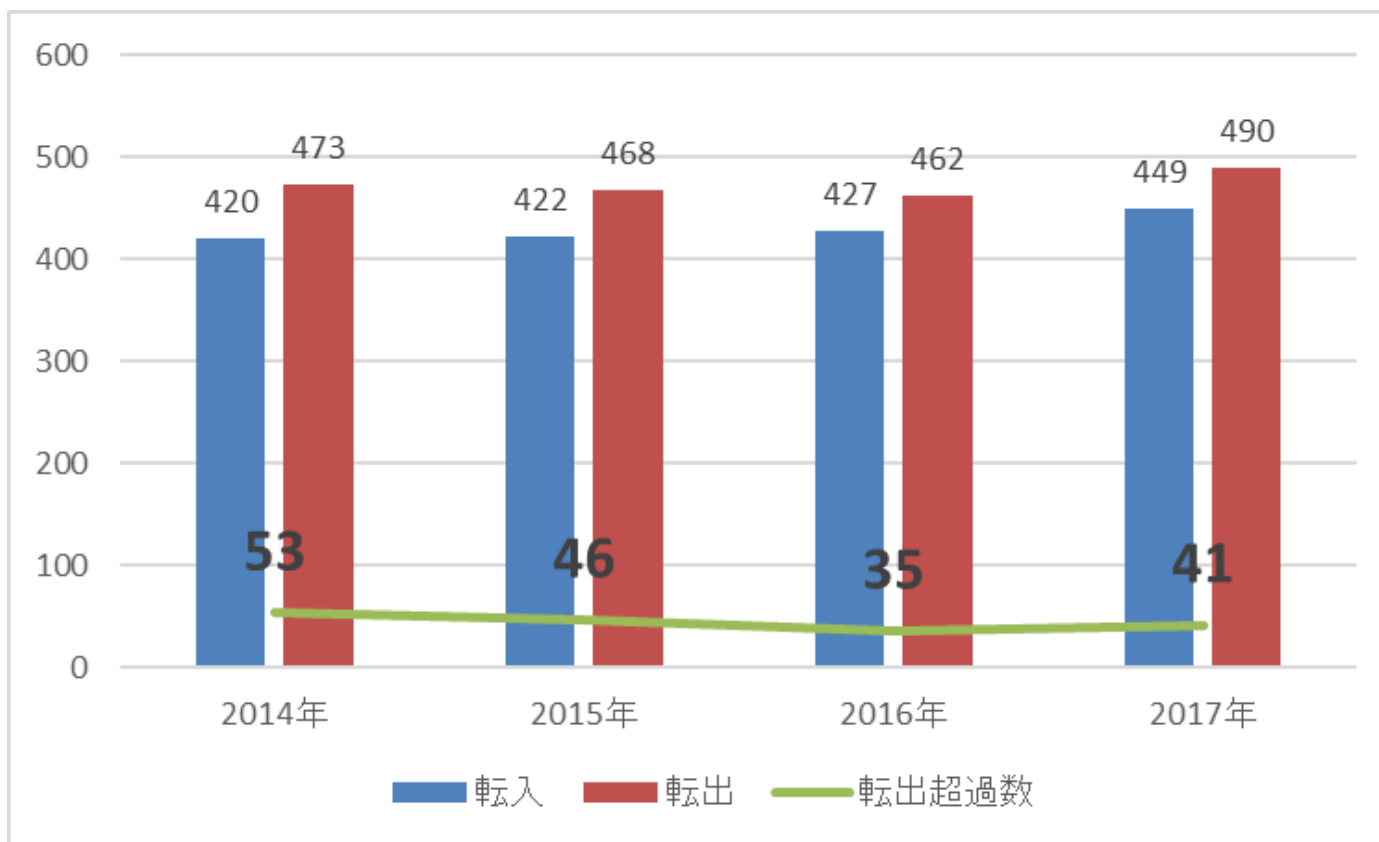
- 課題の共有
若者の地元就学・就職、事業承継、雇用確保
創業支援、クリエイティブ人材の集積
- 大学のあるまちづくり
「自分ごと」として真摯に認識し、
大学・学生の知見とともに
- 目的が一緒
「街を人を幸せにする」行政
「学生を幸せにする」大学





【前橋市】15-19歳（大学等進学時）の若者流出

- 転出者が転入者を上回る「転出超過」が続いている
- 転出超過数は、横ばいかやや減少傾向

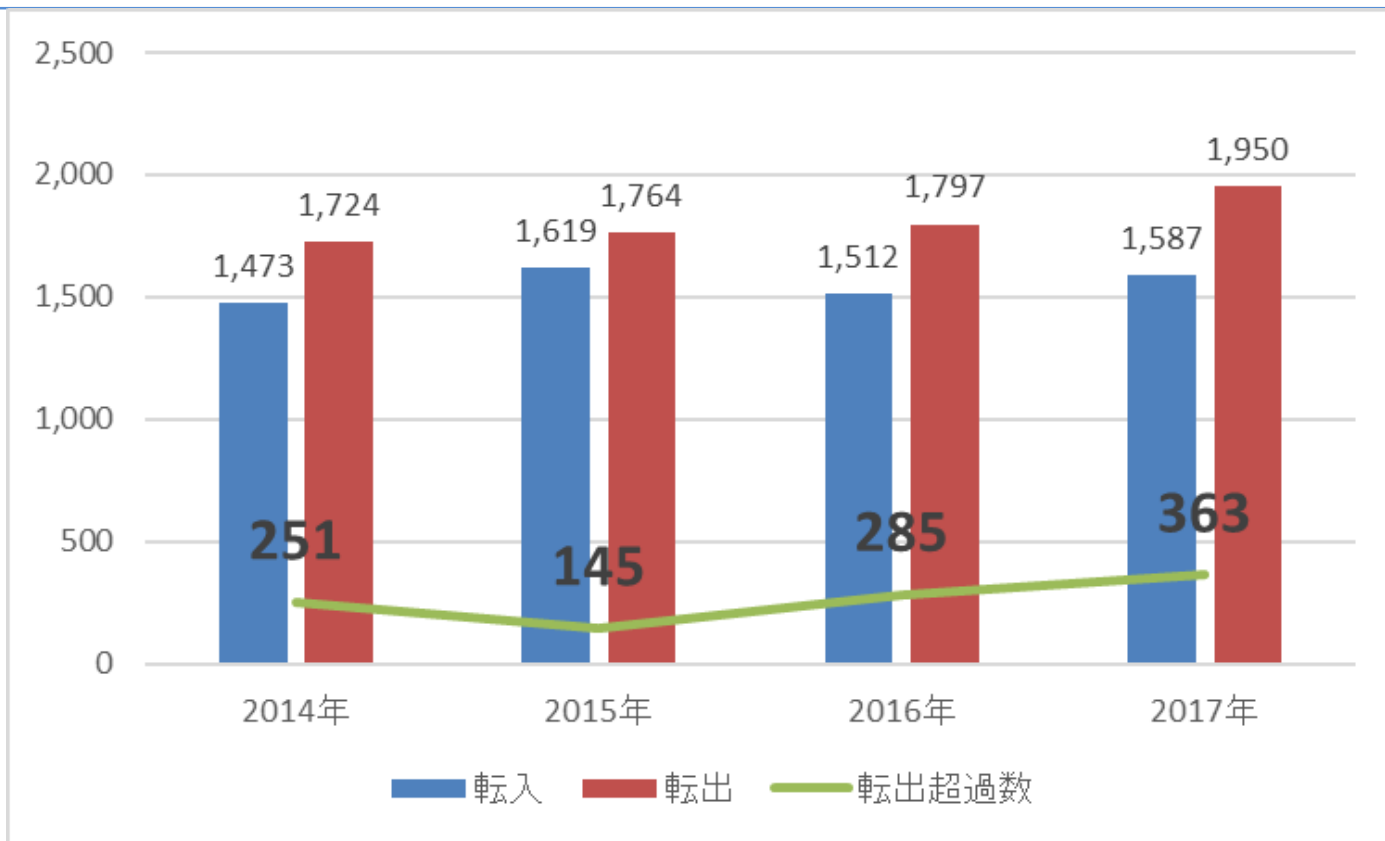


(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成



【前橋市】20-24歳（就職時）の若者流出

- 転出者が転入者を上回る「転出超過」が続いている
- 転出超過数は、やや増加傾向



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」より作成



【前橋市】市内大学が連携することで明らかになる領域

【市内12高校】 **卒業生3,277人**

県立前橋、市立前橋、前橋南、前橋東、前橋西、前橋女子、勢多農林、
前橋工業、前橋商業、前橋清陵、共愛学園高校、前橋育英高校



59%が大学に進学

進学者1,933人

【市内6大学】

群馬大学、前橋工科大学
共愛学園前橋国際大学
県民健康科学大学
群馬医療福祉大学
明和学園短期大学

【県内外大学等】



**市内に就職
(??%)**

**市外に就職
(??%)**

本プラットフォームの
枠組みにより把握可能



地域人材の育成・定着の前提として

前橋市における存続・廃業・新設別での
民営事業所数・従業員数の変化
(経済センサス活動より)

「いかに働く場をつくるか」

H26年 H28年

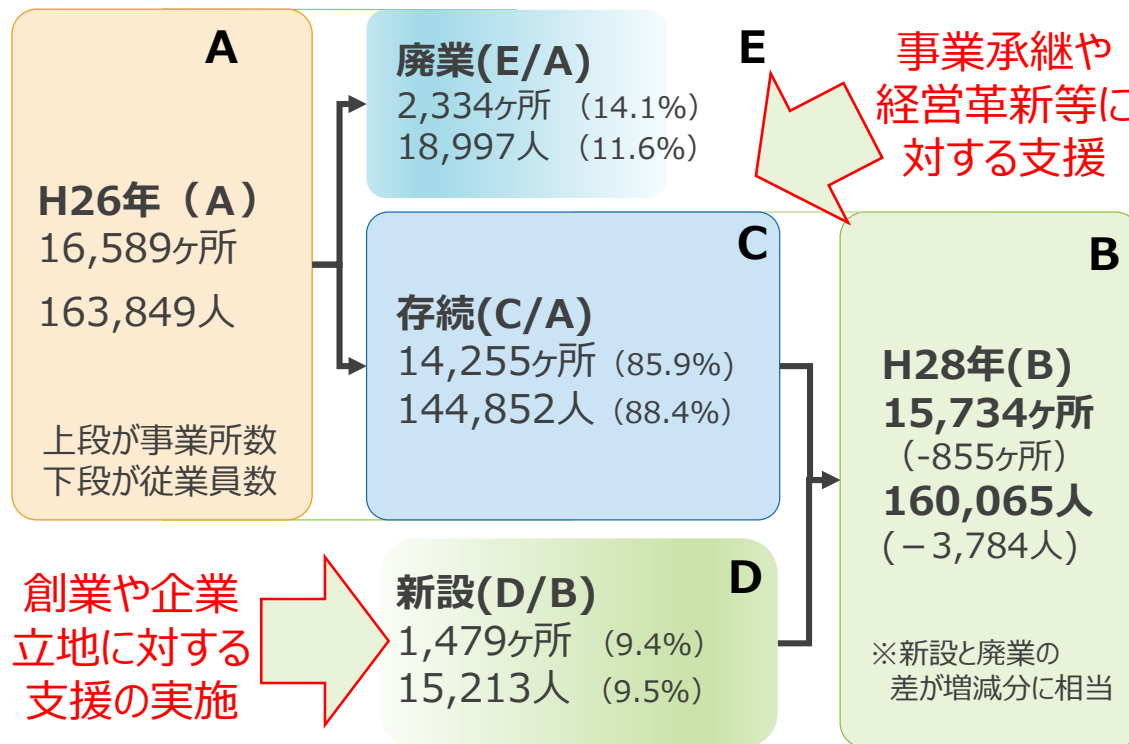
そのためには、

1. 事業継続性のある
稼げる企業を増やす

2. 新しい企業を増やす

産業界として稼ぐ企業づくり
を支援できるかが重要。

ただし、人手不足という
課題が存在。





■何をしてきたか？

- 第1回協議会
教育界（市内6大学全ての理事長・学長）、
産業界（商工会議所会頭、市内有力企業）、
行政（市長）の参画及び合意
- 第2回協議会
各界の課題の再確認
- 第3回協議会
取り組むべき方向性



【第1回協議会】

協議会(総会)の構成

代表者会議

No	分野	団体	職	氏名
1	産	前橋商工会議所 (中屋商事(株) 代表取締役社長)	会頭	曾我 孝之
2	学	共愛学園前橋国際大学	学長	大森 昭生
3	官	前橋市	市長	山本 龍

運営委員会

No	分野	団体	職	氏名
1	産	前橋商工会議所 (株)群馬銀行 専務取締役)	副会頭	深井 彰彦
2	産	前橋商工会議所 (カネコ種苗(株) 代表取締役社長)	副会頭	金子 昌彦
3	産	前橋商工会議所 (株)ヤマト 代表取締役会長)	常議員 広報・広聴委員会 委員長	新井 孝雄
4	産	前橋商工会議所 (学)有坂中央学園 理事長)	常議員 労務・人材育成専門委員会 委員長	中島 利郎
5	学	国立大学法人群馬大学	学長	平塚 浩士
6	学	群馬県公立大学法人 群馬県立県民健康科学大学	理事長 学長	高田 邦昭
7	学	公立大学法人前橋工科大学	理事長	宮下 雅夫
8	学	前橋工科大学	学長	星 和彦
9	学	学校法人昌賢学園 群馬医療福祉大学・短期大学部	理事長 学長	鈴木 利定
10	学	学校法人共愛学園	理事長	須田 洋一
11	学	共愛学園前橋国際大学	学長	大森 昭生
12	学	学校法人平方学園 明和学園短期大学	理事長 学長	桜井 直紀
13	官	前橋市	政策部長	稲田 貴宣
14	官	前橋市	産業経済部長	櫻井 正明
15	官	前橋市	指導担当次長	林 恭祐

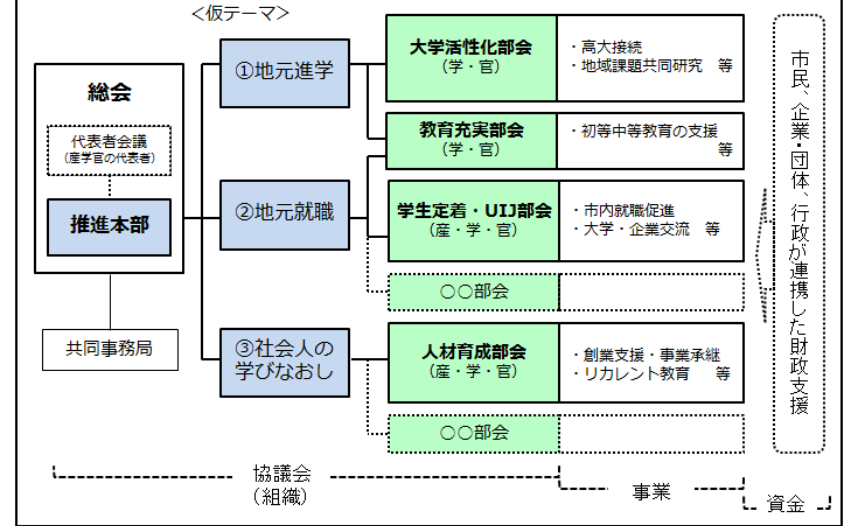
オブザーバー

官	群馬県 労働政策課
官	群馬労働局 職業安定課

事務局

前橋商工会議所、共愛学園前橋国際大学等市内大学、前橋市の共同事務局

プラットフォーム(イメージ)



前橋6大学 学術分野マップ



【第2回協議会】

本プラットフォームが取り組むべき方向性

前回の議論(赤字箇所:各委員からのご意見をもとに追加等対応)

教育界の案		
課題	取組例	
1 進学・就職の統計的な傾向分析と周知	①共同研究	
2 若者定着のための、市内高等教育機関への進学率向上	①共同大学説明会の実施 ②共同の奨学金制度の検討	
3 高大産官接続の充実	①高校生を対象としたキャリア開発プログラムの実施 ②共同教育プログラムの開発	
4 未来の就職先を牽引する高等教育機関に発展を遂げるFD・SDの充実	①合同FD・SDの開催	
5 国際交流プログラムの開発	①留学プログラムの開発	
6 共同教育プログラムの開発	①共同で公開講座を開催、学生間の交流・活動支援	
7 持続可能なプラットフォーム体制整備	①他県先進コンソーシアムへの視察実施 ②シンポジウムの開催	
8 初等中等教育支援	①小中学校のコミュニティスクール化の支援	
9 地域における災害対策の意識醸成	①リスクマネジメント委員会の設置	
10 若者定着のための、市内就職先への就職率向上	①若者定着に向けた異業種交流会の開催 ②留学生の就職支援(ハタラクスクンまとの連携) ③市内定着者への奨励金 ④大学と地域との交流	
11 高等教育機関の特色を発揮したりカレント教育の充実	①リカレント教育プログラムの開発	

行政(市)の案		
課題	取組例	
1 高大産接続	①若年層(高校生)の市外転出超過の要因分析と対策検討 ②市内高校生のキャリア教育支援	
2 人材の育成・定着(市内企業への就職)	①若年層(大学生等)の市外転出超過の要因分析と対策検討 ②市内企業を知る機会、理解を深める機会の提供 ③学生が働く意義を考え、就労を体験する機会の提供 ④留学生やシニア人材の活躍	
3 人材の育成・定着(魅力あるしごと・環境整備)	①介護離職等の社会問題に対応する多様な働き方の推進 ②ICT(テレワーク等)を活用した就労環境整備 ③UIJターンの促進、クリエイティブ人材の還流 ④特定業種(農業、介護福祉人材等)の担い手確保・育成	
4 初等中等教育支援	①様々な主体と協働した教育活動の創出(前橋版コミュニティスクール)	
5 持続可能なプラットフォーム整備	①マネジメントとガバナンスを両立する官民連携組織体制の構築検討	

産業界(商工会議所)の案		
課題	取組例	
1 人材確保・育成・定着	①各種検定試験の実施・活用、新入社員研修の実施等 ②各種セミナー・研修の実施、働き方改革など施策情報等の周知 ③インターンシップ事業 ④企業や従業員間の交流・活動支援	
2 創業支援	①創業スクールの開催や創業に対する相談・支援	
3 高等教育機関の特色を発揮したりカレント教育の充実		

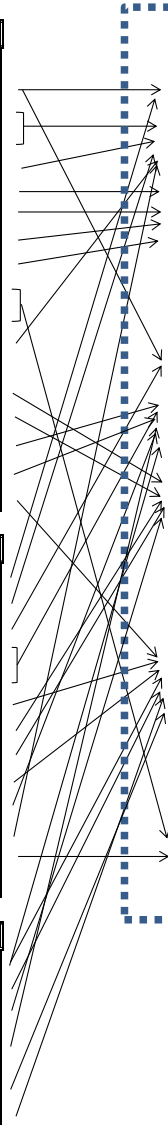
本日の議論

1 地元進学/入口対策(高校卒業→大学等進学)		
課題(取組例)	部会イメージ	
1 統計分析と対策検討(共同研究)	大学活性化部会	
2 市内大学等への進学率向上 (共同大学説明会、高大接続プログラムの開発、初等・中等教育支援(キャリア教育)、前橋版コミュニティスクール、共同の奨学金制度検討等)		
3 大学の活性化、魅力向上 (合同FD・SDの開催、共同教育プログラム・留学プログラムの開発、共同公開講座等)		

2 地元就職/出口対策(大学等卒業→就職、UIJターン)		
課題(取組例)	部会イメージ	
1 統計分析と対策検討(共同研究)	学生定着・UIJ部会	
2 市内企業への就職率向上 (企業見学・インターンシップ、キャリアセミナー、大学と地域との交流、奨学金返済支援の検討、UIJターン促進、留学生の就職支援等)		
3 人材の定着 (介護離職の社会問題に対応する多様な働き方の推進、テレワーク等の働く環境整備支援、企業や従業員間の交流・活動支援等)		

3 学びなおし		
課題(取組例)	部会イメージ	
1 人材の育成・還流 (リカレント教育プログラムの開発、創業・事業承継支援、クリエイティブ人材の還流、シニア人材の活躍等)	人材育成部会	

その他		
課題(取組例)	部会イメージ	
1 持続可能なプラットフォーム体制の構築 ※マネジメント(企画立案・実施、資金調達・管理、各主体との調整等)とガバナンス(審議、資金使途決定、監査等)を両立する官民連携組織体制の構築	総務部会	



【第3回協議会】

めぶく。プラットフォーム前橋が取り組むべき方向性

「地域人材の育成・定着」

1

目的

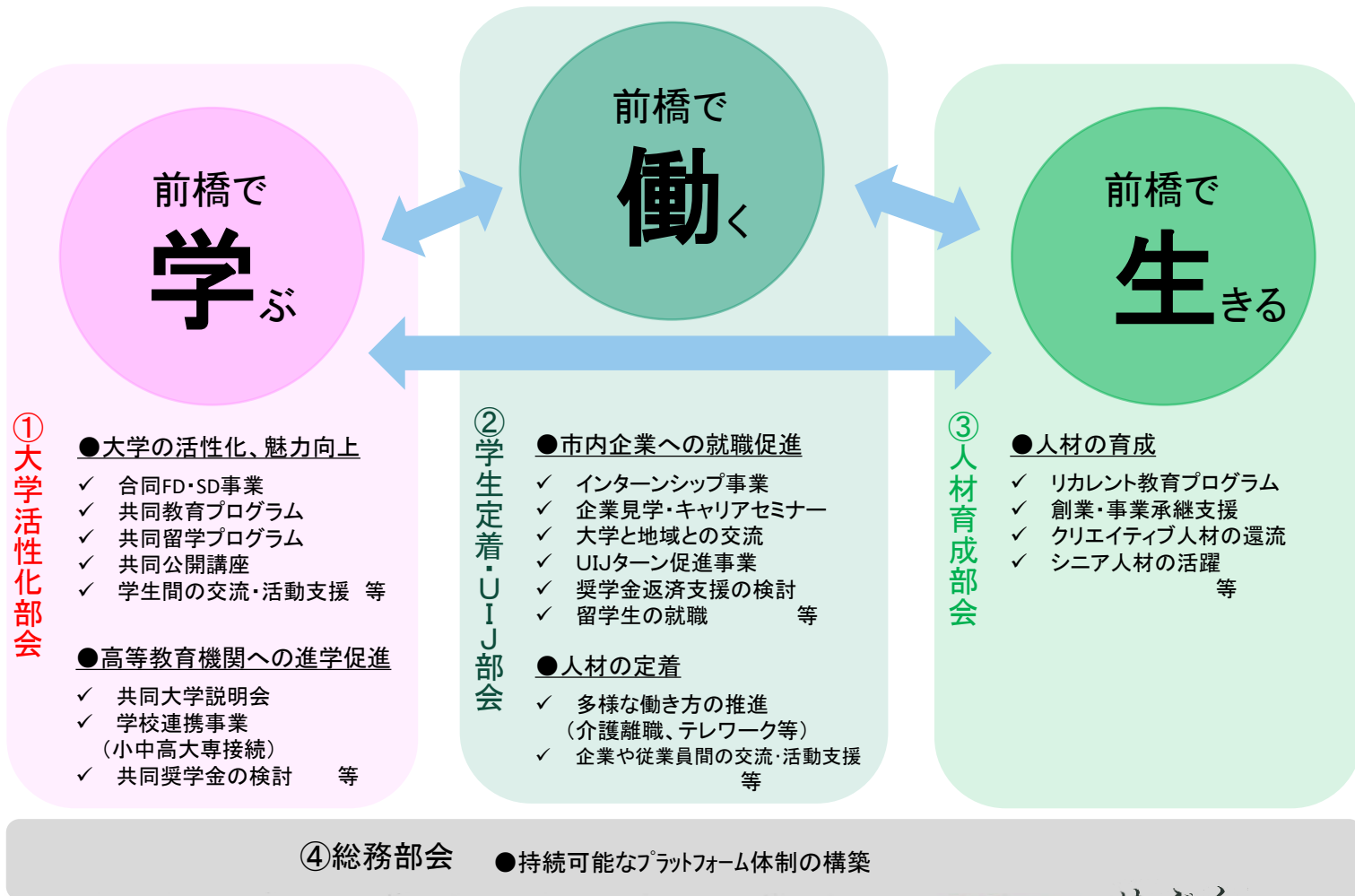
前橋市のビジョン「めぶく。～良いものが育つまち(Where good things grow.)～」には、「前橋の未来に向かって、これまで大切にしてきたまちの誇りや可能性を受け継ぎ、磨き育て、新たな価値を生み出しながら、将来を担う子や孫たちの世代に未来への襷として繋いでいくことを、ここに暮らす全ての人で実現する」という想いが込められています。

この街では、ビジョンのもと、学びたい者は大きな繋がりの中で豊かに学び芽吹くことができ、働きたい者は支える仕組みに励まされながら伸びることができ、仕事を承継させたり生涯にわたり活躍したいと願う者は新たな知見を得て実り継ぐことができる。

私たちは、ここ前橋で、個々が自分らしく光輝くために、人材を芽吹かせ、はぐくみ、根付かせていきます。

2

テーマ



3

部会
・
取組

めぶく。プラットフォーム前橋
大学にとっての意義
大学の取組

大学にとっての意義

■ 一大学では、あるいは大学界だけでは、取り組みが困難な地域課題へのアプローチ

■ 個別展開していた事業を共同にすることで、互いの強みを持ち寄ったり、コストを案分でき、より良い事業にしたり、持続可能性を担保

■ 前橋6大学が共同することで、“前橋総合大学”として前橋で学ぶこと自体をアピール

■ 産官学が共同で地元定着に取り組むことは、結果として、学生募集につながる

■ 産官との協働により、地域人材ニーズなどを議論

■ (連携推進法人を含む) 将来のより密な協働に向けての関係構築

大学が中心となる取組課題

大学の活性化に係る取組

【課題①】進学・就職の統計的な傾向分析	(取組1) 共同研究の実施
【課題②】若者定着のための、市内高等教育機関への進学率向上	(取組1) 共同大学説明会の実施
	(取組2) 共同の奨学金制度の検討
【課題③】高大産官接続の充実	(取組1) 高校生を対象にしたキャリア開発プログラムの実施
	(取組2) 共同教育プログラムの開発
【課題④】未来の前橋市を牽引する高等教育機関に発展を遂げるFD・SDの充実	(取組1) 合同FD・SDの開催
【課題⑤】国際交流プログラムの開発	(取組1) 留学プログラムの開発
【課題⑥】共同公開講座の実施	(取組1) 共同で公開講座を開催
【課題⑦】持続可能なプラットフォーム体制整備	(取組1) 他県先進コンソーシアムへの視察の実施
	(取組2) シンポジウムの開催

教育の充実に係る取組

【課題⑧】初等中等教育支援	(取組1) 小中学校コミュニティスクール化の支援
---------------	--------------------------

リスクマネジメントに係る取組

【課題⑨】地域における災害対策の連携	(取組1) リスクマネジメント委員会の設置
--------------------	-----------------------

学生定着に係る取組

【課題⑩】若者定着のための、市内就職先への就職率向上	(取組1) 若者定着に向けた異業種交流会
	(取組2) ハタラクラスぐんまとの連携
	(取組3) 市内定着者への奨励金

人材育成に係る取組

【課題⑪】高等教育機関の特色を発揮したリカレント教育の充実	(取組1) リカレント教育プログラムの開発
-------------------------------	-----------------------

教育学系

- 群馬大学
●教育学部
…文化・社会系
…国際語専攻
…社会専攻
…英語専攻
…自然・情報系
…数学専攻
…理科専攻
…技術専攻
…芸術・表現系
…音楽専攻
…美術専攻
…生活・健康系
…家政専攻
…保健体育専攻
…教育人間科学系
…教育専攻
…教育心理専攻
…障害児教育専攻
- 群馬医療福祉大学
●社会福祉学部
…社会福祉学科
…社会福祉専攻
…学校教育コース
…子ども専攻
…児童福祉コース
…初等教育コース
- 共愛学園前橋国際大学
●国際社会学部
…国際社会学科
…地域児童教育専攻
…児童教育コース
- 明和学園短期大学
…生活学科
…子ども学専攻
…栄養専攻

医学系

- 群馬大学
●医学部
…医学科

検査技術科学系

- 群馬大学
●医学部
…保健学科
…検査技術科学専攻

診療放射線学系

- 県民健康科学大学
●診療放射線学部
…診療放射線学科

医工系

- 前橋工科大学
●工学部
…システム生体工学科

工学系

- 前橋工科大学
●工学部
…社会環境工学科
…建築学科
…生命情報学科
…システム生体工学科
…生物工学科
…総合デザイン工学科

生活学系

- 群馬医療福祉大学
●社会福祉学部
…社会福祉学科
…子ども専攻
…児童福祉コース
…初等教育コース
- 明和学園短期大学
…生活学科
…子ども学専攻
…栄養専攻

理工学系

- 群馬大学
●理工学部
…化学・生物化学科
…機械知能システム理工学科
…環境創生理工学科
…電子情報理工学科
…総合理工学科
- 前橋工科大学
●工学部
…生物工学科

看護学系

- 群馬大学
●医学部
…保健学科
…看護学専攻
- 県民健康科学大学
●看護学部
…看護学科
- 群馬医療福祉大学
●看護学部
…看護学科

福祉学系

- 群馬医療福祉大学
●社会福祉学部
…社会福祉学科
…社会福祉専攻
…社会福祉コース
…福祉心理コース
…学校教育コース
…子ども専攻
…児童福祉コース
…初等教育コース
- 群馬医療福祉短期大学
…医療福祉学科
…介護福祉コース
…介護福祉士実践コース
…福祉総合コース
…医療事務・秘書コース
- 明和学園短期大学
…生活学科
…子ども学専攻

社会・情報学系

- 群馬大学
●社会情報学部
…社会情報学科
- 前橋工科大学
●工学部
…生命情報学科
- 共愛学園前橋国際大学
●国際社会学部
…国際社会学科
…国際社会専攻
…情報・経営コース
- 群馬医療福祉短期大学
…医療福祉学科
…医療事務・秘書コース

経営学系

- 群馬大学
●社会情報学部
…社会情報学科
- 共愛学園前橋国際大学
●国際社会学部
…国際社会学科
…国際社会専攻
…情報・経営コース

語学・国際学系

- 群馬大学
●社会情報学部
…社会情報学科
- 共愛学園前橋国際大学
●国際社会学部
…国際社会学科
…国際社会専攻
…英語コース
…国際コース

文学系

- 共愛学園前橋国際大学
●国際社会学部
…国際社会学科
…国際社会専攻
…心理・人間文化コース

心理学系

- 群馬医療福祉大学
●社会福祉学部
…社会福祉学科
…社会福祉専攻
…福祉心理コース
- 共愛学園前橋国際大学
●国際社会学部
…国際社会学科
…国際社会専攻
…心理・人間文化コース

作業療法学系

- 群馬大学
●医学部
…保健学科
…作業療法学専攻
- 群馬医療福祉大学
●リハビリテーション学部
…リハビリテーション学科
…作業療法学専攻

理学療法学系

- 群馬大学
●医学部
…保健学科
…理学療法学専攻
- 群馬医療福祉大学
●リハビリテーション学部
…リハビリテーション学科
…理学療法学専攻

めぶく。
プラットフォーム
前橋



大学の取組例

2018年9月26日
市内6大学合同説明会



前橋プラザ元気21にぎわいホールにて、前橋市内6大学で初となる合同進学相談会を開催。チラシは共愛が作り、発信は群大が、広報活動は手分けして、など協働の開催となった。

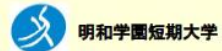
2019年10月21日
合同SD・FD研修会を開催



若手教職員を中心に、6大学並びに前橋市から多数の教職員が参加し、改めて、めぶく。プラットフォーム前橋の意義や取組について確認し、高等教育に係る課題や改革の方向性について学んだ。また、懇親会も開催され教職員同士が懇親を深めた。前橋市内で初めての試みであったが、参加者の笑顔がその成功を物語っている。

2019年2月3日
公開講座

めぶく。プラットフォーム前橋
地域人材の育成・定着にかかる包括連携協定事業



平成30年度 明和学園短期大学

公開講座 **参加無料**

2月3日(日)

10:00~11:40 (受付9:30)

明和学園短期大学(昭和町三丁目)
5F 501教室

対象:一般 50名 ※募集は先着順として定員になり次第締め切らせて頂きます。

災害への対応
めいたんキッチン(災害編)

災害時に役立つ簡単な料理を中心に、避難所体験や体調を整えるための体の動かし方を学びませんか？



～めいたんキッチン(災害編)の講義の様子～

- * 防災に関するお話・パネル展示
- * 災害食の試食
- * 簡単な健康体操

主催:明和学園短期大学
共催:めぶく。プラットフォーム前橋(参加団体:前橋市/前橋商工会議所/群馬大学
群馬県立県民健康科学大学/前橋工科大学/群馬医療福祉大学・短期大学部
共愛学園前橋国際大学)

明和学園短期大学の公開講座を「めぶく。プラットフォーム前橋」と共催するという初の試み。今後の公開講座共同開催の足掛かりとなる。



大学の取組例

2019年11月17日
前橋6大学合同進学相談会・セミナー 開催予定

めぶく。プラットフォーム前橋主催

11/17 [日] 13:30-17:00

前橋6大学合同進学相談会・セミナー

会場: 共愛学園前橋国際大学4号館
内容: 個別相談・ブース形式・進路相談(進路相談)

進路セミナー 各2回開催!

明和学園短期大学 田口 智男 教授

「探究を楽しく学ぶ」
～総合的な探究の時間の指導ポイントについて～

第1回 14:00-15:00
第2回 15:30-16:30

共愛学園前橋国際大学 奥田 浩一郎 教授

「探究による学びと高等教育」
～高校での探究が大学での学びにどう繋がるか～

第1回 14:00-15:00
第2回 15:30-16:30

めぶく。プラットフォーム前橋

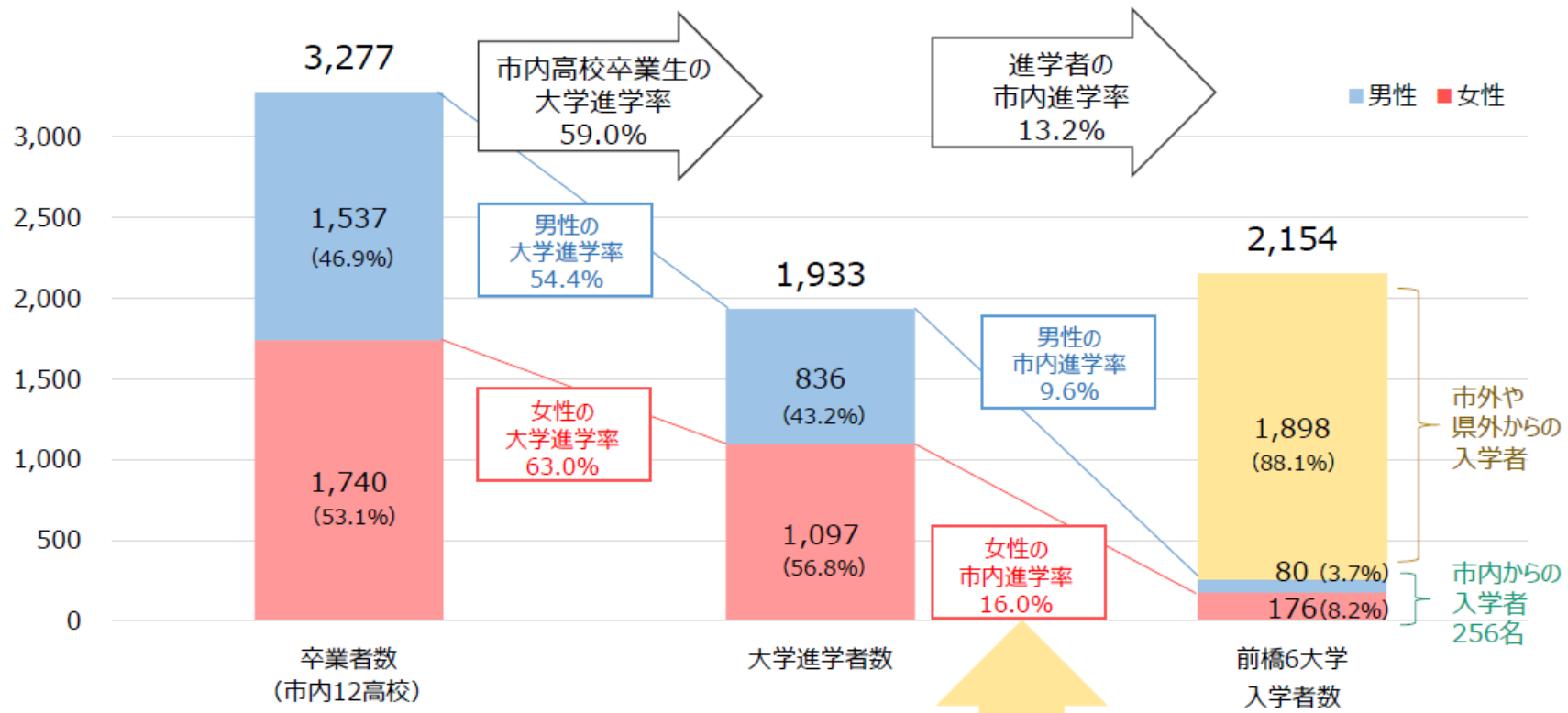
- ### その他の取組
- プラットフォームの安定的運営形態について検討するため先進地視察を産官学で行う
 - 共同IRの先駆けとして進学・就職データを集約し、それらを基盤に若者定着に係る共同研究を開始
 - 前橋市危機管理室と災害時の対応等について協議を開始

- ### 今後の取組
- 事業承継・起業・福祉等に係るリカレントプログラムの開発
 - 初等中等教育支援に係る取組の開発
 - 若者定着奨学金の検討
 - 企業人・学生との交流／学生間交流
 - 等々

大学の取組例～動き出した共同IRと共同研究

①前橋6大学における市内12高校からの進学状況

【図1】市内12高校の卒業者の状況
 <平成29年3月高校卒業生について>



- 市内高等教育機関への進学率向上
- 共同大学説明会の実施
 - 共同の奨学金制度の検討
 - 高校生を対象にしたキャリア開発プログラム実施
 - 共同教育プログラムの開発

平成29年3月卒：学校基本調査および前橋6大学による平成29年4月入学者の調査より算出

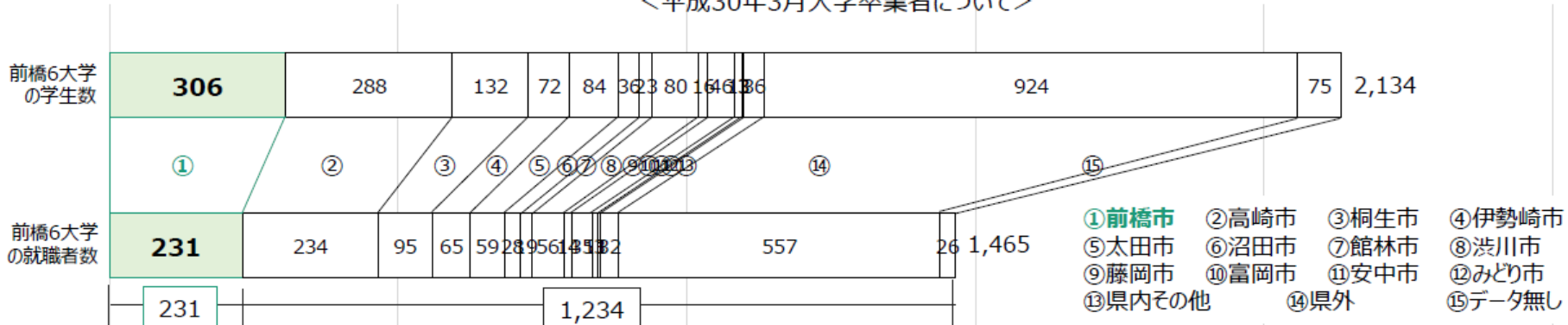


大学の取組例～動き出した共同IRと共同研究

②前橋6大学における就職状況（全体像について）

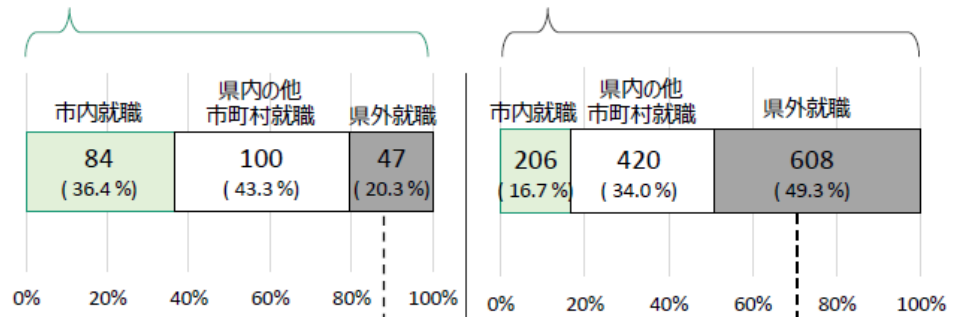
【図2】 前橋6大学における就職状況

<平成30年3月大学卒業生について>



- ①前橋市
- ②高崎市
- ③桐生市
- ④伊勢崎市
- ⑤太田市
- ⑥沼田市
- ⑦館林市
- ⑧渋川市
- ⑨藤岡市
- ⑩富岡市
- ⑪安中市
- ⑫みどり市
- ⑬県内その他
- ⑭県外
- ⑮データ無し

前橋6大学における平成30年学校基本調査より算出



市内への就職定着率向上
 ●市内企業との交流会の実施
 ●市内定着者への奨励金の検討

市内への就職定着率向上
 ●ハタクラスぐんまとの連携
 ●市内定着者への奨励金の検討

【表1】出身高校地域別の県外就職の内訳（上位から表示）

市内12高校出身		市外県外高校出身	
都道府県名	人数	都道府県名	人数
東京都	18	東京都	206
埼玉県	12	埼玉県	120
栃木県	6	栃木県	51
神奈川県	2	神奈川県	42
その他	9	その他	189

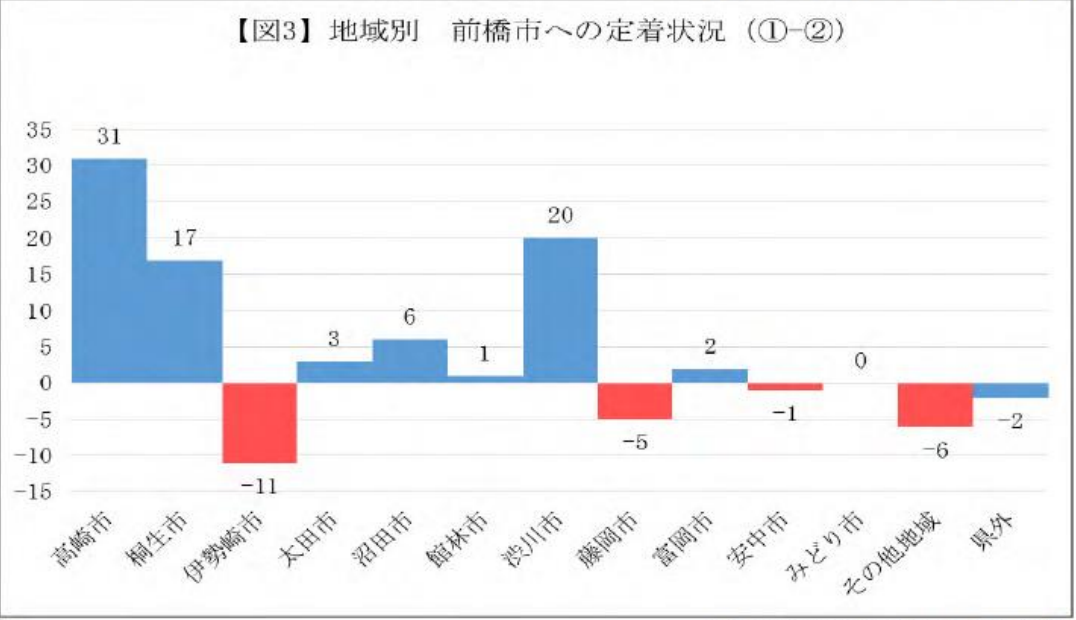
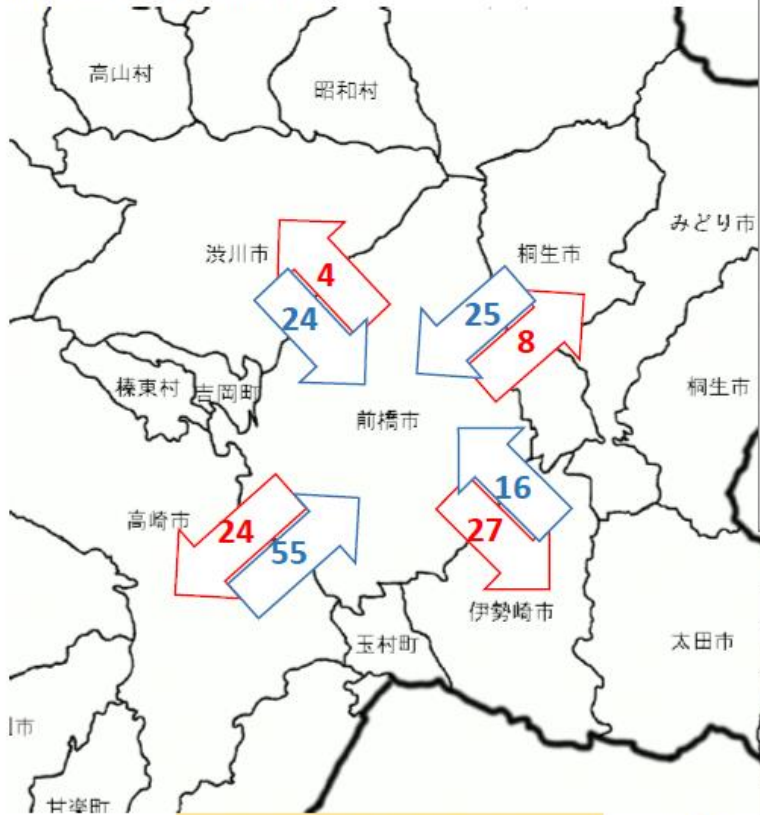


大学の取組例～動き出した共同IRと共同研究

③前橋6大学における就職状況（市内外の流入出について）

<平成30年3月大学卒業者について>

図3のプロット（抜粋）



前橋6大学における平成30年学校基本調査より算出

【図3付表】 地域別 前橋市への定着状況

	高崎市	桐生市	伊勢崎市	太田市	沼田市	館林市	渋川市	藤岡市	富岡市	安中市	みどり市	その他地域	県外	データ無し	合計
①：市外から前橋市への就職	55	25	16	10	9	2	24	0	5	2	1	8	45		206
②：前橋市から該当地域への就職	24	8	27	7	3	1	4	5	3	3	1	14	47		147
(①-②)	31	17	-11	3	6	1	20	-5	2	-1	0	-6	-2		59

市内への就職定着率向上
●市内企業との交流会の実施

地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン（仮称）
＜盛り込むべき事項（たたき台）＞への意見

<盛り込むべき事項（たたき台）>について

全体のトーンとして

- 地域課題解決への大学の積極的なコミットが求められており、PFを地域のステークホルダーと形成する際には、地域課題解決のための基盤としてのPFというトーンが求められると思います。
- 高等教育の課題は当然その中の重要な一つに位置付くものです。

第2章

- PF運営並びに事業展開の持続可能性を担保するためには、組織の在り方や財源が非常に重要であります。そのことに関する記述は少ないように思われます。

第3章

- 章のタイトルが議論を前提とするものとなっており、アウトプットの部分で「策」という表現で示されているものの、課題解決のための実行フェーズが見えづらいと感じました。
 - 例えば、「大学等進学率／大学等進学希望率の向上策」とあります。向上策を検討するだけでなく、（そのための物的・人的コストをどうするかも含め）それをステークホルダーと共に実行に移すということが重要だと思います。同じく、例えば「企業等で求められる人材像と大学等で育成すべき人材像の擦り合わせ」がありますが、「企業等で求められる人材の育成プログラムの協働展開」のような表現により、擦り合わせだけでなく、そのような人材を実際に育成していくという実行のフェーズのトーンが必要と感じます。
- 将来のより緊密な連携等の基盤となることを視野に入れる場合、大学間連携に係る記述が薄いようにも感じました。
 - 共同SDFDや共同教育プログラム、共同リカレントプログラム等々大学がタッグを組んで大学自身を活性化させる、その取り組みをステークホルダーに応援・協働してもらおうということもPFの重要な意義だと思います。3-3-(2)-②には大学間連携が触れられていますが、大きな枠組みの在り方のことであり、その前段の連携協力がその先を見据えて不可欠だと思います。

おわりに

- 自治体には（産業界も当然のこと）国立・私立を含む高等教育全体を所管する部署や予算はありません。これから私たちが取り組もうとしていることは、そうした地域の皆さんにも高等教育機関のことを自分事として受け止め、議論し、課題を共有し、その存続や活性化にむけて協働してもらおうということと理解しています。
- 確かに、大学が存在することそれ自体のインパクトは地域にとって相当に大きいことですので、そのことを大学もきちんと示していく必要がありますし、大学の存続それ自体の危機についても課題を共有しなければなりません。
- ただ、その先に一緒に汗をかいてもらおうとするときには、大学がどれだけ地域課題を自分事化し、その解決に汗をかこうとしているかということも非常に重要なことだろうと感じています。

（大森 私見）

ご清聴ありがとうございました。

中央教育審議会大学分科会（第 151 回）
「地域における高等教育機関と大学間の連携の在り方について」
「めぶく。プラットフォーム 前橋」について 参考資料

前橋市における地域人材の育成・定着に向けて

（方針案骨子）

平成 31 年 3 月 29 日

めぶく。プラットフォーム前橋

（地域人材の育成・定着にかかる産学官連携基盤推進会）

目次

1	はじめに	P 2
2	プラットフォームを取り巻く現状（事実の共有）	P 3
	（1）人口減少・少子高齢化社会の進展	
	（2）若者の転出超過と急速な減少	
	（3）地域産業の担い手不足と society5.0 の到来	
	（4）人生100年時代に合わせた教育と社会の循環システム	
3	プラットフォームが果たすべき役割（解釈の共有）	P 7
	（1）地域の将来ビジョンと本プラットフォームの位置づけ	
	（2）産学官連携による課題解決	
4	プラットフォームにおける今後の取組（行動の共有）	P10
	（1）地域人材の育成・定着策の検討・実践	
	①前橋で学ぶ	
	②前橋で働く	
	③前橋で生きる	
	（2）持続可能な運営体制の構築	

1 はじめに

本市は、東京から北西に約 100 キロ、赤城山の雄大な自然と利根川の美しい流れに囲まれた人口約 34 万人の中核都市であり、明治期には製糸業を通じて日本の近代化に貢献するとともに、群馬県の政治・経済・文化の中心として発展してきた。

その一方で、多くの地方都市と同様、人口減少・少子高齢化の波が大きく押し寄せている。国の推計によれば、2040 年における本市人口は約 28 万人（△17.6%）まで減少し、とりわけ、若年層では、15－19 歳（大学等進学時）で約 5,500 人（△34.4%）、20－24 歳（就職時）で約 3,600 人（△25.2%）の減少が見込まれている。

こうした社会構造の変化を背景に、「地域人材の育成・定着」の重要性は今後ますます高まっていく。若者の地元就学・就職、起業・事業承継、学びなおし（リカレント教育）など、地域の将来を支える人材をどのように育成し、定着させていくかは、産業界、教育界、行政が共通して抱える喫緊の課題である。

平成 30（2018）年 9 月、市内にある国公立全 6 大学と前橋商工会議所、前橋市の三者は包括連携協定を結び、地域人材の育成と定着に向けて知恵を出し合うための協議会「めぶく。プラットフォーム前橋」を設立した。群馬県と群馬労働局（厚生労働省）もオブザーバーとして加わった。30 年（2018）度は各界からの意見を集約し、31 年（2019）度以降は具体的な事業立案及び実施予定である。

本報告書は、これまで開催された協議会や各界における議論をもとに、産学官が課題解決に向けた全体像を共有し、取組を加速させることを目的とする。

2 本プラットフォームを取り巻く現状（事実の共有）

（1）人口減少・少子高齢化社会の進展

我が国の総人口は、平成 20（2008）年の 1 億 2,808 万人をピークに減少し始めており、国の推計（平成 29 年推計）によれば、2040 年には 1 億 1,092 万人となると見込まれている。また、出生数は年々減少を続けているが、平成 29（2017）年には 94 万人まで減少し、2040 年には 74 万人程度になると見込まれている。高齢者人口（65 歳以上）は、2042 年に 3,935 万人（高齢化率 36.1%）でピークを迎える見込みである。

本市に目を向けてみても、現在約 34 万人の人口は、2040 年には約 28 万人まで減少し、高齢化率は平成 27（2015）年の約 28%から 2040 年には約 37%まで上昇することが見込まれており、こうした社会構造の変化を前提とする新しい地域の在り方を考えていかなければならない。

なお、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略（H30.12.21、2018 改訂版）では、経済の好循環が地方において実現しなければ、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルに陥り、地方からの人材流入が続いてきた大都市もいずれ衰退し競争力が弱まるとし、人口減少問題の克服や将来にわたる成長力確保に向け、「東京一極集中の是正」、「若い世代の就労・結婚・子育ての希望実現」、「地域特性に即した地域課題の解決」という 3 つの基本的視点から人口・経済・地域社会の課題に対して一体的に取り組むこ

ととしている。

(2) 若者の転出超過と急速な減少

若者の東京圏への転出超過に歯止めがかかっていない。国の統計によれば、全国から東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）への転入超過数は、近年約12万人規模で推移している。その大部分は15-29歳までの若者で、とりわけ、大学進学者は約7万人程度と大きな割合を占めている。

本市においては、若者の転出超過が続いている。2017年データによれば、15-19歳が41人（転入449人・転出490人）、20-24歳が363人（転入1,587人・転出1,950人）であり、転出先のうち東京圏が占める割合は、15-19歳で42.4%、20-24歳で45.2%であった。

加えて、今後は、その限られた若者の数が急速なペースで減っていく。国の推計によれば、全国の18歳人口は、2017年の約120万人から2040年には約88万人まで約26.7%減少すると見込まれている。

本市においても、2015年から2040年までの間に、15-19歳人口は約34.4%（16,199人→10,632人）、20-24歳人口は約25.2%（14,416人→10,784人）減少すると見込まれている。これは、総人口の減少率約16.5%（335,580人→280,181人）を大きく上回っている。

(3) 地域産業の担い手不足と society5.0 の到来

日本商工会議所が実施した「人手不足等への対応に関する調査」によれば、企業における人員の過不足状況は、「不足している (65.0%)」が約 2 / 3 を占め、「過不足はない (33.0%)」を大きく上回っている。また、数年後の人員充足の見通しについても、「不足感が増す (61.0%)」が、「現在と同程度 (34.1%)」を大きく上回るなど、既に深刻化する人手不足は、解消の兆しを見せていない。

また、国の経済センサス活動調査からは、地域経済を支える市内の事業所数及び従業員数が縮小していることが分かる。

【前橋市における民間事業者数及び従業員の変化】

	H26		H28
事業所数 (ヶ所)	16,589	(新設) +1,479 (廃業) -2,334	15,734 (-885)
従業員数 (人)	163,849	(新設) +15,213 (廃業) -18,997	160,065 (-3,784)

一方で、第4次産業革命とも言われる、IoT (Internet of Things)、人工知能 (AI)、ビッグデータ、ロボティクス等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、イノベーションから新たな価値が創造されることにより、経済発展と社会的課題の解決を図る社会「Society 5.0」の実現に向けた取組が加速している。

こうした新たな社会の到来は、慢性的な人手不足に陥っていると言われる労働集約型産業（介護事業や運送業など事業活動の主要な部分を労働力に頼り、売上に対

する人件費の比率が高くなる産業)をはじめ、産業のあり方、雇用のあり方を変える可能性を秘めており、人々は現時点では想像もつかない仕事に従事していくことも予想される。

(4) 人生100年時代に合わせた教育と社会の循環システム

日本は健康寿命が世界一の長寿社会を迎え、人生100年時代構想会議によれば、平成19(2007)年に日本で生まれた子供は107歳で生きる確率が50%あるとされている。人生100年時代においては、これまでのような、高校・大学まで教育を受け、新卒で会社に入り、定年で引退して現役を終え、老後の暮らしを送る、という単線型の人生を全員が一斉に送るのではなく、個々人が人生を再設計し、一人一人のライフスタイルに応じたキャリア選択を行い、新たなステージで求められる能力・スキルを身につける機会が提供されることが重要であり、こうした教育と社会の循環システムを中心となるのが、「リカレント教育(学び直し)」であるとしている。

個々人の多様な価値観を尊重し、地域と共生しながら活躍できる社会の実現に向けて、生涯を通じて切れ目なく、質の高い教育を用意し、いつでも有用な知識や能力を身に付けられる学び直しの方が提供されていることが期待される。

3 本プラットフォームの方向性（解釈の共有）

（1）地域の将来ビジョンと本プラットフォームの位置づけ

本市では、「めぶく。～良いものが育つまち～」（第七次総合計画 2018-2027）を地域の将来ビジョンに掲げている。本市には、水と緑にあふれる豊かな自然環境、絹遺産をはじめとする歴史文化、充実した医療環境、全国有数の農業生産力など、多くのまちの誇りや可能性があり、これらは、このまちで暮らしてきた人たちが、永きにわたって愛し、守り、育て、残してきた財産（DNA）であり、「良いものが育つ場所」であることの証である。地域の未来に向かって、これまで大切にしてきたまちの誇りや可能性を受け継ぎ、磨き育て、新たな価値を生み出しながら、将来を担う子や孫たちの世代に未来への襷として繋いでいくことを、ここに暮らす全ての人で実現しようとする思いが込められている。

また、ビジョンを実現するためのキーワードとして「地域経営」を掲げ、これまでのように、行政を頂点として地域課題の解決を目指すのではなく、市民、企業・団体、行政それぞれが自分ごととして地域の課題を捉え、自主的・自律的に、また連携して課題解決に取り組むことを目指している。

この街では、ビジョンのもと、学びたい者は大きな繋がりの中で豊かに学び芽吹くことができ、働きたい者は支える仕組みに励まされながら伸びることができ、仕事を承継させたり生涯にわたり活躍したいと願う者はそのための新たな知見を得ることができる。私たちは、ここ前橋で、個々が自分らしく光輝くために、人材を

芽吹かせ、はぐくみ、根付かせ、実り継いでいくことを目指します。

なお、本プラットフォームの目的である「地域人材の育成・定着」は、市政運営の最重要課題の一つとして、県都まえばし創生プラン（地方版人口ビジョン・総合戦略）や第七次前橋市総合計画に位置付け、教育界・産業界・行政が一体となった地域プロジェクトとして推進するものである。

<参考> 主要計画への位置づけ

県都まえばし創生プラン (優先課題3 若者の総数の減少)	事業 No.19 大学等の活性化 事業 No.20 学生の定着促進 事業 No.21 UIJ ターンの奨励 事業 No.22 ベンチャーへブン前橋の実現 事業 No.23 市内企業の事業承継・人材育成支援
第七次前橋市総合計画 (重点施策 2 移住定住促進)	重点事業 No.37 若者の定着促進

(2) 産学官連携による課題解決

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(H30.11.26、中央教育審議会答申)では、高等教育は「知識の共通基盤」から更に進んで「知と人材の集積拠点」としての機能を継続的に発展させていくことが重要であり、「学び続けること」こそが価値であるという社会を、全ての関係者とともにつくることを目指すとされている。そのうえで、各高等教育機関は、地域の人材を育成し、地域の行政や産業を支える基盤であり、これを十分に機能させていくためには、常に地域において何が必要とされているのか、地域に対して当該高等教育機関が何を提供できるのか等の観点についての情報共有と連携を欠かせず、18歳の伝統的な人材育成ニーズのみならず、

リカレント教育、共同研究の在り方、まちづくりのシンクタンクとしての機能など幅広い観点を議論する場とする必要があるとしている。

また、地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議最終報告（H29.12.8）では、人手不足が顕在化しているにも関わらず、就職のタイミングで今なお東京圏への大幅な転入超過が続いている状況に鑑み、地域での雇用創出や雇用の質（相応の賃金、安定した雇用形態、やりがいのあるしごとなど）の向上させるため、首長のリーダーシップの下、地域の関係者が将来ビジョンを共有しながら、連携を深め、魅力ある雇用の創出や若者の就業促進に向けた取組を行っていく必要があるとしている。

本プラットフォームは、こうした社会的な要請にも応えながら、「地域人材の育成・定着」に向け、産業界・教育界・行政が地域の課題を共有し、お互いの強みや経営資源を持ち寄りながら課題解決に取り組んでいくこととする。

4 今後の取組（行動の共有）

（1）地域人材の育成・定着策の検討・実践

本プラットフォームは、以下3つのテーマを中心に、地域人材の育成・定着に資する取組を検討し、実践する。

①前橋で学ぶ

市内12高校生の卒業生（平成29年3月）は3,277人で、そのうち進学は2,650人（80.9%）となっている。進学者の内訳は、大学・短大が1,933人（59.0%）、専門学校等が717人（21.9%）である。

なお、大学・短大への進学者1,933人のうち、市内12高校からの卒業生は256人（13.2%）となっている。

本市には、多くの高等教育機関が存在している。市内高等教育機関の活性化・魅力向上により、市内外の高校生の進学を促す取組を推進する。

【課題と取組例】

課題	取組例
統計分析と対策検討	・ 高校生の進学意向にかかる共同研究 等
大学等の活性化・魅力向上	・ 合同FD・SD事業 ・ 共同教育プログラム ・ 共同留学プログラム ・ 共同公開講座 ・ 学生間の交流・活動支援 等
市内大学等への進学促進	・ 共同大学説明会 ・ 学校連携事業（小中高大専接続） ・ 共同奨学金制度の検討 等

②前橋で働く

市内6大学の卒業生（平成30年3月）は2,134人で、そのうち就職者は1,465人（68.7%）である。なお、全就職者（1,465人）のうち前橋市内への就職者は290人（19.8%）となっている。

人材育成を担う市内高等教育機関と人材定着を担う市内企業とが協働し、地元
に就職して地域の産業を支える人材が育てば、地域の稼ぐ力を高めるとともに、
定住や将来的な出生数増等による地域経済の好循環へと繋がっていくことから、
それらを促すための取組を推進する。

【課題と取組例】

課題	取組例
統計分析と対策検討	・大学生等の就職意向にかかる共同研究 等
市内企業への就職促進	・インターンシップ事業 ・企業見学、キャリアセミナー ・大学と地域との交流 ・UIJターン促進事業 ・奨学金返済支援制度の検討 ・留学生の就職 等
人材の定着	・多様な働き方の推進（介護離職、テレワーク等） ・クリエイティブ人材の還流 等

③前橋で生きる

人生100年時代においては、社会・地域のニーズに積極的かつ柔軟に対応し、
様々なパターンのリカレント教育の取組（社会人向け大学院、先進的な知識・技

能を学ぶことのできる履修プログラム、一般教養に関する公開講座等)を推進する。特に、経営学などの専門職大学院(ビジネススクール)による学修は、生産性の向上の観点からも学ぶ意義は大きい。

さらには、リカレント教育(学びなおし)を身に着けたうえで展開される起業や事業承継は、市内における新たなビジネス創出に繋がることが期待される。

【課題と取組例】

課題	取組例
リカレント教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育プログラムの開発 ・創業支援、事業承継支援 ・クリエイティブ人材の還流 ・シニア人材の活躍 <p style="text-align: right;">等</p>

(2) 持続可能な運営体制の構築

本プラットフォームは、平成31年(2019)度以降、部会を中心に、具体的な事業立案・実施のフェーズへと移行していく。今後、マネジメント・ガバナンスの両視点から持続可能な運営体制を検討し、地方を先導する「前橋モデル」確立に向けて取り組む。なお、下記①②の検討結果は、段階的に実装し(実証期間が必要な項目は順次試行し)、PDCAサイクルを回すことで実効性を担保する。

①マネジメント検討

地域人材の育成・定着という目的達成に向けて、各主体や個人の当事者意識を促しながら、戦略的で効果的なリソース配分を実現するための目指すべきマネジメントを検討する。

(例)「対話」、「企画立案・実施」、「地域の巻き込み・各主体との調整」、
「資金調達・管理」、「人員管理」等

②ガバナンス検討

地域人材の育成・定着という目的達成に向けて、各セクターの更なる連携を促しながら、透明性が高く効率的な統制を実現するための目指すべきガバナンスを検討する。

(例)「対話」、「審議・意思決定プロセス」、「資金使途決定」、「監査」等

以上